

令和3年8月度栗東市教育委員会臨時会会議録

開催日時 令和3年8月27日（金） 13:00～13:45
開催場所 庁舎4階 協議会室
出席委員 教 育 長 福原 快俊
教育長職務代理者 太田 加代子
委 員 内記 一彦
委 員 田中 和子
委 員 朽木 徳壽
事務局出席者 教育部長（川崎）、教育部次長兼スポーツ・文化振興課長（片岡）、教育総務課長（西村）、学校教育課長（田中）、学校教育課参事（高野）学校教育課課長補佐（石田）、書記（小林）

開会宣言 13:00

教育長

ただいまから令和3年8月度教育委員会臨時会を始めるにあたりまして、本日は傍聴の申し出が1名ありましたので、栗東市教育委員会傍聴人規則第2条により、傍聴人を入場させていただきます。

傍聴人

（入室）

教育長

それでは傍聴人の方に申しあげます。注意事項を遵守していただきますようお願いします。なお、注意事項に違反したときは、退場を命じることがございますので、よろしくをお願いします。

ただ今より令和3年8月度 栗東市教育委員会臨時会を開会します。日程に従いまして進めさせていただきます。

日程2 議案第12号「令和4年度使用栗東市立各小中学校教科用図書の採択につき議決を求めることについて」事務局より説明をお願いします。

学校教育課長

議案第12号「令和4年度使用栗東市立各小中学校教科用図書の採択につき議決を求めることについて」をご説明申しあげます。

公立の各小中学校で使用する教科用図書の採択については、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」の規定により、採択地区協議会が設置され、この協議会で行われた教科用図書選定の結果に基づき、各市町教育委員会で年度ごとに採択することになっております。

資料をご覧ください。資料編 1 ページ～ 2 ページには、本市が所属します教科用図書第二採択地区協議会の規程を載せております。この教科用図書第二採択地区協議会は、草津市、栗東市、守山市、野洲市、甲賀市、湖南市の 6 市で構成されており、それぞれの教育長、教育委員代表、保護者代表を委員とする協議会になっております。この協議会において、第二採択地区内の各市立小中学校で使用する教科用図書が選定されます。3 ページが本年度の協議会委員の皆様です。

次に本日議決を求めることならびに第二採択地区での教科用図書選定までの経緯と結果について説明をさせていただきます。4 ページが今年度の経緯となっております。

本年度は、小・中学校「特別支援学級一般図書」の採択替えの年であります。さらに、昨年度末再申請の末、新たに検定を通過しました中学校用教科書社会科歴史的分野についても、調査研究を行い、採択替えを行うかどうかを協議しました。現在までに協議会を 2 回、代表協議会を 1 回、幹事会を 3 回開催いたしました。併せて、5 月 28 日から 6 月末にかけて、各市より選出した委員による調査委員会を開催し、厳正かつ精密な調査を行いました。7 月 29 日の協議会では、委員長より調査報告を受け選定し、第二採択地区としての議決を行いました。

小学校は、5 ページ～ 6 ページが通常学級で使用するものの一覧と理由です。7 ページ～ 10 ページは、特別支援学級で使用する一覧です。特別支援学級で使用するものについては、学校教育法附則第 9 条の規定により、文部科学省著作本と検定本以外にも、絵本などの一般図書からも選定することができます。知的障害学級用については、社会科において「チャイルドブックこども百科 くらしとぎょうじのせいかつ図鑑」の 1 冊が新たに選定されました。

続いて、中学校は、11 ページ～ 12 ページが通常学級で使用するものの一覧と理由です。社会科歴史的分野については、調査の結果、今年度と同じ日本文教出版を選定しました。

中学校特別支援学級の一覧は、13 ページ～ 15 ページです。知的障害学級用については、外国語科（英語科）において「AR で英語が聞ける 英語もののなまえ絵じてん」「えいごで 1・2・3（ワン・ツー・スリー）！」の 2 冊が新たに選定されました。なお、弱視学級については、小中学校とも通常学級で採択された教科用図書の拡大版と文部科学省著作本であります、点字版の教科用図書を選定しています。16 ページ～ 26 ページまでは、小学校・中学校の特別支援学級の使用図書の学年の目安を掲載しております。続いて、協議会において、各教科調査委員長より報告されました調査結果の概要について担当より説明いたします。

教育長

まず、特別支援学級の一般図書の選定について説明を聞いた後、質疑を行い、そのあとで、中学校の歴史の説明と質疑にしたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

全委員

異議なし

教育長

事務局の方はそれで構いませんか。

学校教育課長

結構です。

学校教育課参事

それでは、協議会にて調査委員会から報告されました教科用図書の調査委員会報告について、ご説明申し上げます。

まず、特別支援学級小学校ですが、資料27ページからをご覧ください。令和3年度教科用図書第二採択地区調査委員会報告書の令和4年度使用小学校種目特別支援学級をご覧くださいまして説明をさせていただきます。

まず28ページの様式4-1をご覧ください。昨年度採択されていた社会科の図書の内1冊が供給不能となりましたので、一般図書から補充できる図書の選定を中心に作業を行いました。学習指導要領解説では、障害者の権利に関する条約にあげられたインクルーシブ教育システムの構築を目指し、児童の自立と社会参加を一層推進していくためには、特別支援教育において、児童の十分な学びを確保し、一人ひとりの児童の障害や発達に応じた指導や支援を一層充実させていく必要があると述べられています。従って、知的障害特別支援学級においては、生活単元学習や自立活動において、具体的な体験を踏まえた学習を行う機会が多いと考え、次の3点を念頭におき、選定作業を行うこととしました。

①社会科の目標や内容の主旨、学習活動のねらいを踏まえているもの。

②資料から必要な情報を見つけ出したり、読み取ったりすること容易にするため、情報を拡大してあったり、見る範囲を限定したりして、掲載する情報を精選し、視点を明確にするなどの配慮がみられるもの。

③社会的事象の意味を理解しやすくするため、社会の営みと身近な生活がつながっているもの。

続いて29ページ様式4-2をご覧ください。

弱視学級の「調査した教科用図書の範囲」についてですが、児童の障がいの程度、発達の段階、能力に応じた教科用図書が使用できるように検定教科書と同一内容の文字等を拡大した拡大教科書を選定対象としました。

選定理由については、弱視学級児童の障害の内容や程度も様々であり、何より、「読むこと」への障がいが多いことから、これらの児童に可能な限り対応できるように配慮しました。

知的障害をとまわらない特別支援学級児童の教科用図書については、通常学級用に採択された当該学年の教科用図書の使用を基本としますが、障がいの種別、特性、能力に応じた教科用図書が使用できるものとしています。また、弱視学級以外の学級に在籍はしているけれど、弱視を重複する児童の教科用図書については、教育内容、教育方法の中心が弱視教育となることから、弱視学級用の教科用図書に準じるものとしています。

次に30ページの様式5-1をご覧ください。

社会科の調査研究観点として、5点をあげました。これらは、2019年度作成の県教育委員会の小学校特別支援学級・知的障害における教科用図書調査研究観点の各教科・種目に共通する

具体的観点①～③と、社会科の具体的観点④⑤、および第二採択地区共通観点より作成しました。

①社会生活等に関係した内容が適切に取り入れられ、また、話題や題材は学習活動に活用しやすいものになっているか。

②学習展開に際し、身近な出来事や生活経験を生かし、活動しやすいような学習内容の構成、配列になっているか。

③地域の実態を生かし、観察や調査・見学などの体験的な活動が展開できるよう内容や構成に配慮されているか。

④表現、表記などがわかりやすく、児童に適しているか。

⑤資料、図表、写真、さし絵などは興味や関心を高めるような工夫がなされ、また、造本に創意工夫がなされているか。

以上です。

33ページには、様式5-2の弱視学級の調査研究観点は、知的学級の観点と同じで、5つ目の観点に、「資料の適切な拡大等」を加えたものになっております。

次に36ページの様式6-1をご覧ください。

計3回の調査委員会は、各委員が学校や家庭から参考になる図書を15冊ほど持ち寄り、図書館で選んだ本3冊と合わせて検討しましたが、ベストと思われる本がなく、ベターな本2冊についても問い合わせ結果は供給不能でした。そこで滋賀県教育委員会の「選定に必要な資料」に掲載されている一般図書の中から取り寄せた5冊について検討を行いました。実物を手に取って23冊の中から観点ごとに選定した結果、「チャイルドブックこども百科 ぐらしとぎょうじのせいかつ図鑑」を補充することに決定しました。

38ページの様式6-2の弱視学級につきましては、検定教科書と同一内容の文字等を拡大した拡大教科書としました。

次に39ページの様式7-1をご覧ください。今回補充した図書については、各学年の使用の目安を3年・4年といたしました。それは、3年生に担当されている「生産と販売の仕事（漁業・農業・お店）および消防・警察の仕事（防犯・防災）」に関する内容と、4年生に担当されている「伝統や文化に関する内容（伝統行事）」の学習に活用できると考えたからでございます。

42ページの様式7-2の弱視学級につきましても、どの学年で使用するとよいかという目安を示しています。

最後に、選定しました本について説明させていただきます。

44ページをご覧ください

「チャイルドブックこども百科 ぐらしとぎょうじのせいかつ図鑑」チャイルド本社

①実生活に即した内容で、子どものぐらしに直結する内容が網羅されている。知的学級の児童については、交流学級で社会科を学ぶ場合が多いが、この図書は特別支援学級で社会科を学ぶ児童の視点に合致しやすく、生活自立に向けた学習の一助になる。

②身近な生活の中にあるものを題材にすると共に、基本的な情報に限定して記載されているので、これらをきっかけにして3・4年生の社会科学習に広げていくことができる。また、項目ごとにまとめられているので、順に学習することもできるし、必要なものをピックアップすること

もできる。

③自分自身の生活体験と照らし合わせることで、自立に向けた学習につながる。また、校外での体験的活動に先立つ学習に活用することができる。

④問いかけや投げかけに沿って、自分でページをくって調べられる。また、めあてを持たせる言葉や説明の言葉が平易であり、すべての漢字にルビがふってある。

⑤カラーの写真やイラスト・図版が多く、読みやすい文字の大きさである。また、ハードカバーの丈夫な造りであり、見開きで構成されており探している情報を見つけやすい。

以上、令和3年度教科用図書第二採択地区調査委員会 令和4年度使用小学校特別支援学級調査委員会からの報告といたします。

続きまして、特別支援学級中学校の説明を進めさせていただきます。資料45ページをご覧ください。

調査委員会では、特別支援学級の教科用図書の採択について、知的障害学級の外国語（英語）の一般図書において、多様な障がいの程度に合わせて選択の幅が広がるように追加する事を中心に検討しました。

はじめに、50ページにあります、令和4年度使用教科用図書調査研究観点（知的障害学級）【様式5-1】について協議を行いました。その際、県教育委員会教育長より出された通知「令和4年度に小学校および中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について」をふまえ、滋賀県教育委員会より出された「中学校特別支援学級教科用図書選定に必要な資料」に記載された調査研究の観点を確認し、学校での生徒の実態を考え合わせて検討しました。

では、令和4年度使用中学校特別支援学級の教科用図書について報告します。

令和4年度使用中学校教科用図書を選定するに際して、外国語科（英語科）の一般図書から選定されていた4冊に加えて、一般図書23冊の候補から選び、調査研究の観点に照らし合わせて選定作業を進めました。その結果、

- ・「三省堂 ARで英語が聞ける 英語もののなまえ絵じてん」
- ・「くもん出版 えいごで1(ワン)・2(ツー)・3(スリー)！」の2冊を一般図書より選定しました。

次に、選定しました教科用一般図書について、それぞれの選定理由を説明します。

外国語科（英語科）の使用教科用図書 調査研究観点は50ページの様式5-1に記載してあります4点となります。

では、選定いたしました2冊についてご説明いたしますので、61ページからをご覧ください。

・「ARで英語が聞ける 英語もののなまえ絵じてん」ですが、この図書は、生徒自らが知りたい言葉を調べることができ、その言葉を使用して英会話を楽しもうとする意欲につながるものとなっています。特に、AR（拡張現実）アプリを使用することにより、音声表現も調べることができるため、目と耳から英語に親しむことに大変効果的です。

調査研究の観点に関しては、

観点①様々な日常生活の場面で使用される単語、会話文例が掲載されています。そのページで表現させたい目標が書かれているため、その単語と会話を組み合わせて会話文をつくり、会話す

ることを楽しめるような内容になっています。また、日常生活でつぶやくような表現や、動物の鳴き声の違いなどから文化の違いへの関心が高まることにつながっていくことが期待できます。

観点②学習したい内容が見開きで示されており、1時間の授業で学習する内容への見通しが持たやすくなっています。また、内容は身近な日常生活の内容から始まり、地名、行事、気持ちの伝え方など、幅広い分野の言葉を知ることができる構成になっています。

観点③ゴシック体を使用し、どの生徒にも読みやすい配慮がされています。発音はカタカナで表記されており、アクセントの強弱もわかりやすくなっています。英会話の文例では、単語を入れ替える箇所が色づけされているため、活用しやすい工夫がされています。

観点④絵の色遣いやデザインが美しく、場面のイメージがしやすいため、生徒がページを楽しみながら学習にむかうことができます。また、デジタル機器を使用して、イラストにカメラをかざすと音声が出るようになっており、自分が聞きたい単語についてネイティブの発音を聞くことができるため、正しい発音を耳から確認することができます。

次に、「えいごで1(ワン)・2(ツー)・3(スリー)！」です。

この図書は英語の「聞く」「声に出す(言う)」「書く」「読む」をバランスよく学習できる内容となっています。知的障害学級に在籍する生徒の障害の程度は多様ですが、基本的な学習内容から発展的な問題まで含まれており、全ての生徒が楽しく学ぶことができます。

調査研究の観点に関しては、

観点①身近に起こりうる場面設定で、基本的な英語でのやりとりが多く示されているため、生徒が英語に親しみ、意欲的に表現活動に取り組めるようになっています。また、グローバルな登場人物のやり取りを通して英語や外国への関心を育てる内容となっています。

観点②日常に即した内容になっており、ICT機器を活用して楽しく音声が聞けるようになっています。また、音声のやり取りに加え、話すこと(やりとり)や書く活動も取り入れられ、バランスよく学習することができます。

観点③音声による表現、短い会話文での表記は分かりやすく、興味、関心をもてるような工夫がされています。ステップごとに見開きで構成されており、1時間の見通しが持ちやすくなっています。

観点④カラーの挿絵は親しみやすく、中に会話文がちりばめられており、視覚的にイメージしやすくなっています。

以上で説明を終わります。

教育長

では、特別支援学級の一般図書の調査結果について質疑を受けたいと思います。

太田教育長職務代理者

中学校の方ですが、ARや、タブレットを使ったものが選定されていますが、小学校でもタブレットが使われはじめているのですが、そのような選定はされていないのでしょうか。

学校教育課参事

今年度につきましては、小学校社会科の供給不能本の補充という形で選定をしておりますので、タブレットなどを活用する図書は選定されておられません。

しかしながら、今後、1人1台端末の活用することも含めて考えてまいります。

教育長

他にご質問等はございませんか。

それでは、特別支援学級一般図書については、チャイルド本社の「くらしとぎょうじのせいかつ図鑑」、三省堂の「ARで英語が聞ける 英語もののなまえ絵じてん」、くもん出版の「えいごで1・2・3!」を採用するという事によろしいでしょうか。

全委員

異議なし

教育長

では、特別支援学級一般図書につきましては、提案のあった3冊を採択するという事にいたします。

続いて、中学校歴史的分野についての説明をお願いします。

学校教育課参事

中学校歴史的分野の調査結果について報告させていただきます。資料は64ページからをご覧ください。昨年度は社会科の3分野の教科書を分担して調査を行い、調査結果をまとめております。今回の調査は、自由社の歴史教科書が新しく検定を通過したことを受けて行いました。そのため、歴史的分野のみの調査を行っております。調査員については、昨年度の歴史的分野を担当した調査員が引き続き調査を担当しました。

まず、64ページの様式1については、昨年度実施した調査の観点について検討し、今回の調査においても、昨年度の調査と同じく観点を6つとしています。そのうち、

1 内容の取扱には、県の採択観点を参考に、新学習指導要領で生きる力を具体化する3本の柱と整理された

①知識および技能

②思考力・判断力・表現力等

③学びに向かう力・人間性等

としました。また、「第二採択地区の子どもたちにとって学習しやすいか」ならびに「多様性の尊重」「人権尊重」など第二採択地区として大切にしたいと示された諸課題についての工夫等を併せて調査観点としています。具体的な観点の内容については、それぞれの様式1を御覧ください。

今回の調査で調査した教科書は8社です。観点別評価や研究結果につきましては65ページからの様式2および69ページからの様式3をご参照ください。

まず、新学習指導要領に示された3つの観点（様式1の1内容の取扱い）について調査し、政治・産業・社会・文化についての内容を時代ごとにバランスよく配置し、歴史の流れと各時代の特色が理解しやすいことや、思考・判断を重視し、それについて表現させる工夫がなされていること、毎時間の振り返り、章の振り返りが整理しやすく、取り組みやすいことなどから、東京書籍、帝国書院、日本文教出版の3社が総合的に優れていると判断しました。

一方で教育出版は、章末の振り返りについては年表と語句挿入の形式の統一感があるなど評価できる点もありますが、自分の言葉で時代を大観させる問いは説明的で知識偏重のため、やや高度すぎると感じられます。

山川出版は、個別の歴史的事象の定着を目指し、世界史との関連を強く意識した構成になっています。しかし、様々な観点からみて全体的にかなり高度な内容となっており、多くの生徒にとって難解であると考えます。

育鵬社は、多面的・多角的に考察する資料等を掲載して思考・判断を促す工夫などの特色が見られるものの、その学習箇所が少ないこと、また小学校での人物・エピソード学習との違いが感じられないという印象があります。

学び舎は、各章の初めに課題意識を持つための問いかけを設定していますが、知識の定着を意図しただけの設問が多いことなどがマイナス面として見られます。

今回新たに加わった自由社は、コラムに詳しく掘り下げた内容や章ごとの調べ学習の方法やまとめ方の提示など、興味をもって幅広い知識と教養を身に付けられるようにしています。しかし、中学生には難解な言葉が多く見られたり、生徒に考えさせたり議論させたい内容が示されているため、思考を深める余地が少ないと感じられます。

なお、第二採択地区観点である「多様性の尊重」「人権尊重」「環境」等の現代的な諸課題については、すべての教科書で取り扱いがあり、それぞれに工夫や配慮が見られました。その中で山川出版は環境・防災についての記述が少なく、この観点ではマイナス評価となりました。

今回加わった自由社についても、現代的な課題についてコラムなどで取り上げているテーマもありました。ただ、民衆の視点からの記述・表現が少ないことや女性蔑視ととれる表現があることはマイナス評価となりました。

次に優秀とした3社のその他の特徴をあげますと、まず東京書籍は教科書としてのバランスがたいへんよく学習指導要領が求めている3つの観点の学習内容箇所が一番多いと言えます。また、まとめにウェビングマップやクラゲチャートなどの多種類の思考ツールによる思考の可視化を促すなど、示唆に富んでいます。しかし、写真の輪郭や説明の文字が小さく分かりにくいものも散見され、ユニバーサルデザインの視点からは若干マイナス評価ということになります。

帝国書院も適切に歴史的事象を配置し、生徒の学習活動も進めやすい工夫がなされていますが、全60ページにわたるコラムの内容等が中学生にとって難しいものが多く、本文との差異が感じられるものもありました。

日本文教出版は他の2社と同様に教科書としてのバランスの良さに加え、3社の中で、掲載し

ているコラム数、写真数、思考・判断を求める課題数が最多であり、生徒にとって見やすく、考えやすいものでした。また、毎時間の学習課題は「どのように」だけでなく「なぜ」を問うものもあり、深い思考を促す工夫がされていました。

これらのことから総合的に判断し、歴史的分野については今年度から使用している日本文教出版が適当であるという結果になりました。

以上をもちまして社会科の歴史的分野に関する教科書の調査結果報告を終わります。ご審議をよろしくお願いいたします。

教育長

では、歴史的分野の調査結果について質疑を受けたいと思います。

内記委員

自由社につきまして、歴史的な事実というよりも、著者の主観や解釈が多かったように感じましたが、どうでしたか。

学校教育課参事

著者の主観が入っていると捉えられるところとしましては、47ページの「天皇号の始まり」の最後の部分には、「日本の自立の姿勢を示す天皇の称号は、その後も使われ続け、途切れることなく今日に至っています。これは日本の歴史を特徴づけるものとなりました。」と示されている部分や、1964年の東京オリンピックの表記がされている269ページでは、「その中で日本の選手も大活躍し、女子バレーボールチームが宿敵ソ連を破って優勝しました。」という表記があり、優勝は事実ではありますが、ソ連に対して、「宿敵」という表現を教科書の中で使うことがふさわしいのかと感じる部分もございました。

教育長

ほかにご意見はございませんか。

田中委員

漢字の読み方についてですが、中学生にとって非常に難しいなあという風に私は感じました。生徒達に全員の中学生にとって読めるのか心配いたしますが、いかがでしょうか。

学校教育課参事

調査委員会でも、漢字の使い方については、難しいものがあると話題になっておりました。難解な漢字には、ふりがながつけられており、読むことはできるのですが、その意味を理解しているかと問われますと、57ページにあります「万葉集が編纂され」などは文脈から意味を読み取れるかと思いますが、249ページの「インドネシアは今でも独立が日本の戦いを機縁として実現したこと」の、「機縁」などは、中学生には難しいものがあると思われます。

教育長

確かに中学生にとって難しいのではないかと思う熟語が多く使われているように感じました。ほかにご意見はございますか。

朽木委員

第2採択地区の独自観点では、どのようなことが話し合われましたのでしょうか。

学校教育課参事

第2採択地区の独自観点としましては、「多様性の尊重」「人権尊重」「世界平和」「いじめ」「環境」等の現代的な諸課題について工夫・配慮がなされているかということですが、「多様性の尊重」「人権尊重」「世界平和」「環境」「防災」については、コラムなどで言及されておりましたが、持続可能な社会やいじめについての直接的な記述がございませんでした。また、55ページの「大宝律令の離婚規定」について女性蔑視とも取れる表現があると思われま

教育長

その他ご意見ご質問はございませんか。

太田教育長職務代理者

今までの意見をもとに、次年度の歴史の教科書については、昨年度採択した日本文教出版の教科書がよいのではないかと思います。

学校教育課参事

今年度新たに調査をさせていただいた自由社を含めましても、昨年度採択していただいた日本文教出版の教科書が、総合的に優れていると評価をしております。

教育長

他にご質問等はございませんか。

それでは、歴史的分野についての教科用図書は、日本文教出版を採用するということによろしいでしょうか。

全委員

異議なし

教育長

では、歴史的分野につきましては、日本文教出版を採択するということにいたします。

それでは、議案第12号「令和4年度使用栗東市立各小中学校教科用図書の採択につき議決を

求めることについて」お諮りします。

令和3年7月29日（木）に開催されました、教科用図書第二採択地区協議会における選定結果に基づき、令和4年度使用栗東市立各小中学校教科用図書を採択することに異議ございませんか。

全委員

異議なし

教育長

異議なしと認め、議案第12号「令和4年度使用栗東市立各小中学校教科用図書の採択について」承認されました。

以上で令和3年8月度栗東市教育委員会臨時会を閉会いたします。ありがとうございました。

閉会宣言 13：45